

子育てにやさしいいわきの商店街（福島県いわき市）

1. 取り組みの概要

いわき市では、市内の全ての商店街が連携し、平成19年度より「子育てにやさしいいわきの商店街づくり事業実行委員会」を立ち上げ、「子育てにやさしいいわきの商店街づくり宣言」をしている。実行委員会では福島県で実施している子育て応援パスポート事業を推進するとともに、親子料理教室の開催やこどもを対象にした「こども店長」事業などを行い、子育てしやすい環境づくりを進めている。

2. 商店街概要

組織名	子育てにやさしいいわきの商店街づくり事業実行委員会
商店街名等	いわき市平商店街連合会、小名浜地域商店連合会、いわき湯本温泉商店会連合会、勿来地域商店連合会、ネーブルシティかしま、いわき地域商工会広域連携協議会、いわき商工会議所女性会、いわき地域商工会女性連絡協議会、いわき商工会議所、いわき市、福島県
所在地	福島県いわき市平字田町120ラトブ6F（いわき商工会議所内）
組合員（会員）数	—
URL	—

いわき駅周辺の商店街の様子



3. 取り組みに至る経緯・背景

福島県では平成19年1月より、子育て応援パスポート「ファミたんカード」事業を実施している。当事業は、県内に居住している子育て世帯に「ファミたんカード」を配布し、

カードを協賛店で提示することで割引やプレゼント等のサービスを受けることが出来るものである。

いわき市では、当初ファミたんカードの協賛店が少なく、協賛店を増やしたいとの思いから、市内の商店会連合会の1つ「ネーブルシティかしま」の会長を中心に平成20年1月に「子育てにやさしいいわきの商店街づくり事業実行委員会」（以下、実行委員会という。）を立ち上げた。実行委員会は、商店会連合会のほか、商工会や商工会議所、市の保健福祉部や商工観光部などで構成されている。「ネーブルシティかしま」では、元々商店街という枠組みにとらわれずに、地域づくりという視点から、商店だけでなく、病院、幼稚園、物販、銀行等の様々な業種が集まって組織をつくり、フリーマーケットや川を活かしたまちづくり、カーシアター、加工したペットボトルツリーにLEDを利用するなど、環境づくりの活動を行っていたため、それを推進していた現会長が適任ということで実行委員会の立ち上げの準備会で実行委員長に推された。

現会長を中心に、各商店街に子育て支援の重要性を話し、趣旨を理解をしてもらうことで協力を得ている。市内の商店街全てが連携した取り組みは今回の実行委員会が初めての試みであった。

実行委員会では、単にファミたんカードの利用者や協賛店を増やすだけではなく、近年、地域コミュニティが希薄になっている中で、地域と商店街との信頼関係を取り戻すことも視野に入れて活動を行うこととしている。

子育てにやさしいいわきの商店街づくり宣言

少子化の進行とともに、今や子育て支援は国を挙げての重要なテーマになっており、改めて地域全体で支えあう関係、地域コミュニティを再生することが求められています。

このような中、商店街は、これまで安心・安全なコミュニティの場、イベントなどの楽しい時間を過ごす場として、地域づくりの一翼を担ってきました。

今、商店街は厳しい状況にありますが、子育て支援というテーマにおいては、まちの顔として果たすべき役割はとて大きいものと考えております。

そのため、私達いわき市内全域の商店街が連携して、地域の子育て世帯を応援し、安心して子どもを生み育てられる社会の実現に向けて、次の通り「子育てにやさしい商店街づくり」を宣言いたします。

- 一．私たちは、福島県子育て応援パスポート事業を推進し、子育てにやさしい商店街づくりに取り組みます。
- 一．私たちは、商店街の活性化を通し、子育てにやさしい安全・安心のまちづくりに取り組みます。
- 一．私たちは、子育てを応援する各種事業に積極的に参加・協力します。

4. 取り組み内容

(1) ファミたんカード事業

実行委員会では、ファミたんカード事業推進のため、協賛店をPRするオリジナルステッカーを作成し、また協賛店をPRするガイドブックを作成している。これらの活動の成果もあり、当初は協賛店が170店舗のみであったのが、平成19年度中に650店舗まで拡大している。また、カード交付世帯拡大のために各種イベント会場でPRを行ったり、臨時申請受付を設置したりした。その結果、当初1,893世帯であったのが拡大し、現在は小学生、中学生、高校生のいる世帯の全てに交付されている。

なお、ファミたんカードは、平成22年6月からは、栃木県、茨城県、群馬県、新潟県の各県の同様の事業との連携が始まり、各県のカードが取得可能になっている。

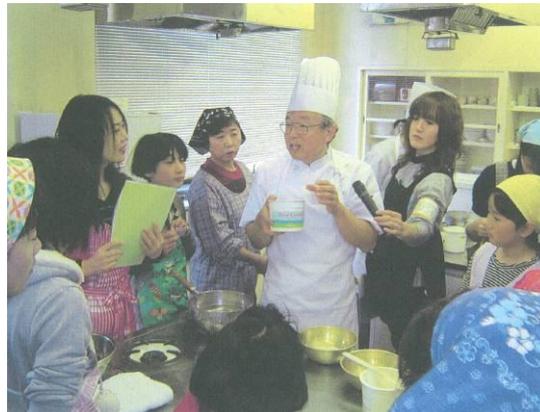
ファミたんカード



(2) 子育て世帯のニーズ把握

平成20年からは、子育て世帯と商店街との情報交換のため、実験的に「家族みんなでenjoy!料理教室」を開催している。商店主が講師となり、親子参加でパエリアやスイーツづくりなどを市内数箇所で行うことにより、子どもたちには料理教室を通じて食育を行い、親とは意見交換を行っている。

料理教室の様子



(3) こども店長事業

現会長が東京を訪れた際に、豊洲にあるキッザニアの人気を目の当りにし、キッザニアのような職業体験は、商店街内で今ある施設を使えばいわき市内でもできると考え、「こども店長事業」を思いついた。平成22年2月に小学4、5、6年生を対象に、市内6地域で、各5～6店舗程度の協力を得て、1店舗あたり2名の参加により店長体験を実施した。こども店長事業では、こどもが「こども店長」と書かれたエプロンとサンバイザーを身につけて参加した。体験終了後は、商店と参加した子どもたちとの意見交換も行っている。

こども店長事業の様子



5. 取り組みによる成果

(1) 成果

ファミたんカード事業等の取り組みを通じて、各商店による顧客との会話が生まれるとともに、子育て支援をきっかけに、商店主が各商店のおすすめの商品やサービス売りを説明することができるようになってきている。

また、子育て支援は売上げに直接的な効果をもたらすものではないが、取り組んでいる商店では儲からないからやらないという姿勢ではなく、社会貢献を行うことが大事であるという認識が取り組んでいる商店でも認識が生まれてきているという。社会貢献に取り組むことで、消費者の存在をより身近に感じるようになるという意識面での成果が大きい。

その他に、実行委員会に多様な主体が関わっていることにより、まちづくりの面で大きな成果が生まれている。元々いわき市は14市町村が合併した市であるため、商店街間でも互いの活動を牽制する意識が根強く残っており、市内全てで連携することはなかった。それが、実行委員会として初めて連携体制が築けたことで、子育て支援以外のまちづくりにおいても協力して取り組む気運が芽生えているという。さらに、商店街と県や市との連携

体制も構築されており、現在策定している「新・いわき市商業まちづくりプラン」の策定にも商店街から参加し、意見交換が来ている。

(2) 成功のポイントや工夫

このような成果をもたらしたポイントや取り組み上の工夫として、以下の点をあげることができる。

- ・ 「ネーブルシティかしま」において、商店街振興だけではなくまちづくり全体を考えた取り組みが先行して実施されており、キーマンとなる人材がいたこと。
- ・ ファミたんカードという県全域での子育て支援の動きがきっかけとなり、また協賛店が少ないという危機を、新たな取り組みのチャンスに変えられたこと。
- ・ 様々な主体が実行委員会に参画することで、色々な活動への展開が可能になったこと
- ・ 商店街だけではなく、県や市等も実行委員会に参画し、単に販促活動だけではなく、地域づくりとしての視点が持てたこと。

6. 課題と今後の展望

(1) 活動資金の確保

今後も継続的に活動を行い、また地域づくりとして活動を展開していくためには、ある程度の活動資金が必要となる。県や市の補助金は3年間の期限があり、平成22年度からは商工会議所の予算で活動を行っているが、今後の取り組みに当っては各地域で予算を組んでいくことも検討している。

(2) 人材の確保

「ネーブルシティかしま」の会長は、商売を行う傍ら実行委員会の活動を行っているために、商工会議所等の支援はうけているものの、事務局機能が弱い部分も見られ、取り組みのコア人材を増やしていく必要がある。

(3) 地域間の温度差の解消

実行委員会の活動により市内の商店街が連携することができたが、地域によって取り組みの温度差があるのも事実である。取り組みへの賛同を依頼しても、「何のメリットがあるのか？」と返答されることもあり、より各地域が主体的に取り組む仕組みが必要である。